

ノ ー ト

私立大学の教育水準とその将来

第三報 私立大の問題点とその予測

富 永 保 夫

Educational Level of Private Universities (Daigaku) and Other Prospect

Yasuo TOMINAGA

はじめに

毎年度の秋に発表されている文部省のまとめた学校基本調査の結果のあらましが、(57. 9. 17)に速報された。これによれば今春の大学・短大への全国平均の進学率は36.3%で、昭和50年代に入ってから最低であり前年比△0.6%の減となった。進学熱の目安である現役高校生の志願率も44.4%と6年間連続の減少で、その間に△3.3%のダウンがあり、現役進学率も前年比△0.5%減の30.9%までの続落となった。一方教育訓練機関や専修学校への人気は依然高く9.6%まで進学率を増加するなど進路選択は多様化しており、父母の家計の苦しさや教育費の高騰、それに高校側の進路指導の徹底などの要因もあって大学への進学をあきらめる高校生が漸増して来た。

なお国立大・公立大の合格者も9人に1人即ち11.1%がその入学許可を辞退して私立大等へ進路を変えるなど“大学離れ”や“国公立大離れ”がはっきりし、さらに一層進んで来たものと思われる。また最近の58年1月の共通一次試験に5.4%の2万人近い多数の欠席者があり、大学離れも深刻になり入試制度の手直しを含めた改革の声も出始めた。

1 昭和58年進学率は34.6%と予想

これは昭和58年春の国公立の全大学・全短大の入学者を595,900人と推定し、3年前の中学校卒業生数の1,723,000人で除したもので、現役と浪人を併せた大学短大の進学率の予想値である。昭和57年の進学率の△0.6%のダウンに引き続いて、58年はこれまた△1.7%の大幅下げとなり、35%代も割込んで予想値が34.6%と出てきた。このダウンの原因はその母数となる3年前の中学校卒業

者が163.5万人から172.3万人と増加したのがその最大原因となるので、次の昭和59年の進学率は多少戻して35.6%程度に落付くものと思われる。第1表には最近5ヶ年間の進学率(含浪人)と現役進学率も合わせて示してある。

表1 進学率の推移

昭和	53	54	55	56	57
全大学・全短大	38.4%	37.4%	37.4%	36.9%	36.3%
全 大 学	26.9	26.1	26.1	25.7	25.3
私 立 大	21.2	20.1	20.1	19.7	19.4
現 役 進 学 率	32.8	31.9	31.9	31.4	30.9

文部省統計要覧による。57年の値は富永の推定値である。

2 定超率1.30倍は実現可能か

最初に結論をのべてみよう。昭和61年までの4ヶ年ではまず無理であらう。

第2表には私立大学の入学者数、入学定員、定員超過率の最近の5ヶ年間の推移を示した。

表2 私立大の定員超過率

昭和	50	54	55	56	57
入 学 者	337,790	314,524	316,858	317,009	317,037
入学定員	183,729	221,989	224,699	229,869	233,389
定 超 率	1.838倍	1.417倍	1.410倍	1.379倍	1.358倍

文部省調査報告速報による。定員数は大学一覧による。57年の値は富永の推定値である。

昭和57年の私立大の定員超過率は入学定員233,389名に対し入学者が317,037名と推定されるのでその値は1.358倍であり、前年比△0.021倍の低下になった。この入学定員は前年比+3,520名の増加であるが、入学者は僅か28名の増加にとどまった。

私立大に限ったことではないが入学定員の増加内訳は(i)私立大の新設, (ii)学部を増設, (iii)学科増, (iv)は学科定員改訂増の四つの場合があるが, (iii)(iv)項は水増し解消策で事実上の入学者の増加にならない場合が多いが, 前の2項は少なくとも定員増の半分以上は入学者増の原因となる。

因みに昭和58年度の私立大学定員増は(i)新設大学分で200名, (ii)学訂増設で520名, (iii)学科増設分が230名となり, (iv)科定員増も若干あって最終的には1,600名程度の増加になるものと推定される。61年の定超率は1.32倍程度に落ち着けば上の部であると思う。

3 私立大(学部)の在学者

第3表のごとく私立大(学部)の在学者はこゝ4ヶ年連続の大幅な減少を続け, 毎年約2万人, 4ヶ年で約8万人の減少となった。昭和57年は推定で130万人余となった。これで大幅な減少は終りとなり, 昭和58年の私立大は200~500名の増加に転じ, 昭和59年は約1,000名程度の増加となり, 其の後もほぼ一定の値が続くものと思はれる。

表3 学生数(学部)の増減

	54	55	56	57	4年計
私立大	△21,993	△20,054	△22,630	△16,740	△81,417
国公立大	+7,005	+7,207	+6,940	+7,882	+29,034
大学計	△14,988	△12,847	△15,690	△8,858	△52,383

文部省統計要覧による。57年は富永の推定値。

4 退学・除籍率

退学・除籍率とは例えば昭和49年4月に入学した者が8年後の昭和57年3月末になってもなお卒業に至らない者で死亡除籍やその他の授業料長期未納等で除籍になった者を含む退学者数と昭和49年4月に入学した時の学生数に対する率である。国立大は第4表に示す様に大体6.1%程度であり変化していないが, 私立大は昭和54年から国立大の(2.15倍), (2.16倍), (2.53倍), (2.75倍)と上昇して昭和57年は終りに15.4%となったのは先行き気懸りの材料である。

表4 退学・除籍率

	53	54	55	56	57
国立大	6.2%	6.2%	6.4%	5.5.9%	5.6%
公立大	8.6	9.2	8.5	8.3	7.4
私立大	9.5	13.3	13.8	14.5	15.4

文部省調査統計速報による。

5 その他の問題点

(i) 就職率

私立大の就職率は国立大・公立大に比して毎年良く, 昭和57年は78.5%にまで達し前年比+0.9%と好調であるが, 国立大は前年比△0.7%で69.8%, 公立大のそれは△0.6%で75.2%にとどまっている。これは私立大が他に比して就職に力を入れているためであろう。大学全体では前年比+0.5%の増加で76.7%までになったのは朗報の部であろう。

(ii) 進学率

私立大の進学率も年々上昇して昭和57年は2.3%に達した。私立大は大学院・専攻科等への入学が少ないため国立大の15.2%に比して($\frac{1}{6} \sim \frac{1}{7}$)の低い値にあたるのも私立大の特長の一つであろう。

(iii) 教員数

この数は国立大・公立大・私立大とも年々増加し続け上昇している。昭和57年は筆者の推定で国立大は49,849名, 公立大は5,963名, 私立大は51,565人となり全体では107,000名余となっている。

私立大はこゝ数年学部学生数が大幅に減少しているのに逆に教員数は増加したため, 教員1人当りの学生数がこゝ3ヶ年(27.2人, 26.2人, 25.3人)と少なくなって来ているが, 国立大の(7.4人, 7.4人, 7.4人)に比して極めて多く, その倍率も(3.7倍, 3.5倍, 3.4倍)になっている。私立大は大学院の学生数が少ないため, 事実上は私立大は国立大の3.3倍位になっている。

(iv) 占有率

私立大の全大学に占める割合は学部・大学院, 専攻科等を含めての値で73.7%と最近5ヶ年間に△2.7%の減少となった。国立大は逆に23.4%と+2.6%の増加となった。公立大は大体定員も学生数も余り変化はない。

(v) 残留率

卒業した高校と同一の都道府県の大学に入学した割合である。

昭和57年は国立大44.9%, 公立大47.7%, 私立大36.8%で全大学に対しては38.8%であり, 大学も少しずつ地方の時代に進み+0.6%上昇した。この値が私立大が一番悪いのは大都市に歴史の古い大企模の私立大学が集中しているためである。

文 献

文部省調査統計課：学校基本調査速報(高等教育機関
5月1日現在) 57. 9. 17

文部省大学課：全国大学一覽, 昭和57年版, 57. 7.

文部省調査統計課：文部省統計要覧，昭和57年版，
MEJ 3—8208，57. 8. 20発行
文部省調査統計課：学校基本調査報告書，昭和55年度
高等教育機関，MEJ 3—8205，57，
6. 5発行
富永保夫：教育白書と私立大学，愛知工業大学“研究

報告” No.17 (1982)
富永保夫：“大学離れ”と私立大学の将来—続報，愛
知工業大学“研究報告” No.16 (1981)
富永保夫：“大学離れ”と私立大学の将来，愛知工業
大学“研究報告” No.15 (1980)
(受理 昭和58年1月16日)